



TITLE:

表紙・目次・平成15年度修士論文
・平成15年度卒業論文・執筆者紹
介

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次・平成15年度修士論文・平成15年度卒業論文・執筆者紹介.
京都大学大学院教育学研究科紀要 2004, 50

ISSUE DATE:

2004-03-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/57507>

RIGHT:

京都大学大学院 教育学研究科紀要

第 50 号

運動図形に対する心的状態の付与に及ぼす図形の種類と運動パターンの効果
 学部教育改革の条件—アメリカ・モデルと日本
 文部科学省（旧文部省）・他省間の協力・連携関係構造の検討（その1）
 シンガポールおよび韓国における才能教育の比較研究
 D. ノウルトンの社会科教育論
 水を混合したときの温度変化に関する小学生の判断
 カントの『神の現存在の論証』における「良識」と「形而上学」に関する思考法
 戦前生活綴方における教育評価論研究の方向性
 現代アメリカ合衆国におけるP.フレイレの「リテラシー」論の受容と継承
 先天性血管腫羅患者に見られた経験の意味づけ
 顔の変形を有する人への支援のニーズを探る
 「改訂版タキノミー」における教育目標・評価論に関する一考察
 戦間期オーストリアの郷土科カリキュラムに関する一考察
 家族介護研究の問題点と今後の方向性
 ホール・ランゲージにおける教師の指導性について
 中国語学習における学習動機、達成目標志向性、学習行動、教授法の好み、成績の間の関連性
 素朴概念の修正に影響する既有知識の堅固性の要因の検討
 幼児の自己調整機能に及ぼすルールの使用と社会的文脈の影響
 卒業論文作成時におけるポジティブ幻想の現れ方と精神的健康との関係について
 脚本を読む段階と演技計画の段階において演劇俳優が持つ3つの視点
 批判的思考を支える態度および能力測定に関する展望
 専門職大学院の社会的意義と大学の公共性
 中央教育審議会答申を中心にみた戦後日本教育改革の課題
 スウェーデンの家族政策に関する一考察
 「報徳」言説の語態
 G. バタイユの「無頭のコロネ」論にみる主体の生成＝死
 わが国の小児科領域における子どもへのインフォームド・コンセントについて
 TAT再考
 既視体験研究の歴史
 過剰な攻撃性を表出する青年への援助について

京都大学大学院 教育学研究科紀要 第50号

目 次

論 文：

運動図形に対する心的状態の付与に及ぼす 図形の種類と運動パターンの効果	子安増生・龍輪飛鳥	1
学部教育改革の条件—アメリカ・モデルと日本—	江 原 武 一	22
文部科学省(旧文部省)・他省間の協力・連携関係構造の検討(その1) —「教育の情報化」政策推進に焦点を当てて—	高 見 茂	48
シンガポールおよび韓国における才能教育の比較研究 —エンリッチメントとアクセラレーション—	杉本 均・石川裕之・巖 賢娥	64
D. ノウルトンの社会科教育論 —1920年代の米国における統合社会科の展開—	赤 沢 早 人	87
水を混合したときの温度変化に関する小学生の判断	金 田 茂 裕	110
カントの『神の現存在の論証』における「良識」と「形而上学」に関する思考法 —批判期道德哲学の「良識」と「哲学」に関する思考法への萌芽—	中 沢 哲	120
戦前生活綴方における教育評価論研究の方向性 —綴方批評と「生活台」分析を結ぶ観点から—	川 地 亜弥子	131
現代アメリカ合衆国におけるP.フレイレの「リテラシー」論の受容と継承 —I.ショアの「批判的リテラシー」論とその授業実践に焦点をあてて—	谷 川 とみ子	144
先天性血管腫罹患者に見られた経験の意味づけ： 顔の変形を有する人への支援のニーズを探る	松 本 学	158
「改訂版タキノミー」における教育目標・評価論に関する一考察 —パフォーマンス評価の位置づけを中心に—	石 井 英 真	172
戦間期オーストリアの郷土科カリキュラムに関する一考察 —ルートヴィヒ・バッティスタの理論と実践に焦点をあてて—	伊 藤 実歩子	186
家族介護研究の問題点と今後の方向性	篠 崎 未 生	200
ホール・ランゲージにおける教師の指導性について —カリキュラム計画者としての役割を中心に—	新 里 真 世	213
中国語学習における学習動機、達成目標志向性、 学習行動、教授法の好み、成績の間の関連性	安 寧	227

素朴概念の修正に影響する既有知識の堅固性の要因の検討 —電流の課題を用いて—	山 縣 宏 美	241
幼児の自己調整機能に及ぼす ルールの使用と社会的文脈の影響	鈴 木 亜由美	253
卒業論文作成時におけるポジティブ幻想の現れ方と 精神的健康との関係について	橋 本 京 子	265
脚本を読む段階と演技計画の段階において 演劇俳優が持つ3つの視点	安 藤 花 恵	277
批判的思考を支える態度および能力測定に関する展望	平 山 る み	290
専門職大学院の社会的意義と大学の公共性 —大学と社会との接点領域における社会科学分野の役割—	出 口 英 樹	303
中央教育審議会答申を中心にみた戦後日本教育改革の課題 —占領下での教育改革から昭和46年中教審答申まで—	谷 村 綾 子	317
スウェーデンの家族政策に関する一考察 —北欧型NPMの一事例として—	谷 屋 愛 子	331
「報徳」言説の語態	中 桐 万里子	345
G.バタイユの「無頭の共同体」論にみる主体の生成＝死 —フランス1930年代の異質な思索—	宮 崎 康 子	358
わが国の小児科領域における子どもへのインフォームド・コンセントについて —特に悪性・難治性疾患において—	駿 地 眞由美	372
TAT再考	海 本 理恵子	386
既視体験研究の歴史	川 部 哲 也	399
過剰な攻撃性を表出する青年への援助について	中 川 美保子	413

平成15年度修士論文

氏 名	論 文 題 目
岩 上 高 志	被虐待児に対する活動的アプローチの実践と効果
上 中 良 子	昭和初期三大「想画」の検討 ——綴方教育との関係を中心にして——
太 田 拓 紀	戦前における私学出身中等教員に関する研究 ——早大高等師範部出身者の教師観とキャリア形成——
杉 原 真 晃	大学授業における学びのコミュニティの形成 ——教養教育でのアイデンティティの探求過程に着目して——
炭 谷 恭 彦	生徒指導の誕生
高 村 る り	戦後社会科と総合学習 ——上田薫の思想を中心として
西 山 裕美子	論理的思考スキルがビジネス課題の遂行に与える影響 ——測定尺度の作成と社会的情報処理プロセスとの関連性の検討
満 田 育 子	教育系大学における専門職大学院設置に向けた課題 ——地方分権時代の学校管理職養成を目的に——
張 瓊 云	「桜田プラン」の生成と展開 ——戦後初期カリキュラム論の実像——
佐 藤 望	1950年代における「人生雑誌」ブームとその衰退 ——「冷却」(cooling-out)される地方勤労青年——
高 島 涼 子	高齢者観の変容と図書館 ——1961年・1971年高齢化に関するホワイトハウス会議を契機として——
田 坂 蘭 子	滑川道夫の読書指導論に関する一考察
石 川 裕 之	韓国における才能教育政策の展開 ——科学高等学校の変容過程に注目して——
遠 藤 貴 広	G.ウィギンズにおける「逆向き時計」カリキュラム論と「真正の評価」論の連関 ——思想形成過程に即して——
河 合 宏 文	英文理解における文構造の把握 ——統語構造把握問題と語句整序問題を用いて——
川 島 大 輔	老年期の浄土真宗僧侶のライフストーリーにみる死の意味づけ
窪 田 知 子	イギリスにおけるホール・スクール・アプローチの検討 ——インクルージョン概念の定立に向けて——
倉 知 典 弘	社会教育法制定期における労働者教育の位置づけに関する考察 ——教育刷新委員会の議論を中心にして——
米 田 英 嗣	物語理解における登場人物の感情の効果：事象索引化モデルに基づく検討
猿 山 隆 子	戦時下における生活記録の指導理念と学習方法 ——大日本青少年団の「生活記録報道運動」をめぐる——
篠 原 郁 子	母親の〈mind-mindedness〉と母子相互作用の関連性について ——生後6ヶ月から9ヶ月にかけての縦断的研究——
柴 本 枝 美	「人生生物学」としての性教育論 ——1920年代初期における山本宣治の到達点——

平成15年度修士論文

龍 輪 飛 鳥	運動図形に対する心的状態の帰属 ——心理的予測可能性からの検討——
中 西 政 志	帰納推論における情報の不完全性と確信度との関係
西 隅 良 子	共感的喜びと妬み ——その発生に関わる状況要因を探る——
藤 井 康 子	1920年代台湾における台南高等商業学校設立運動
ペー・シュウ キー	日本とマレーシアの早期英語教育に関する一考察
尹 秀 安	帝国日本と英語教育 ——岡倉由三郎を中心に——
中 村 夕 衣	「多文化社会」における教養教育論の限界と可能性 ——ブルーム以降のliberal education論の理論的検討——
古 田 薫	学校教育における公共性概念の再検討 ——教育権分配の視点から——
日 高 由 貴	「キリシタン」をめぐる記述 ——新村出における「南蛮」と「日本」——
荒 木 浩 子	「こころのおさめ方」についての一研究
片 畑 真由美	臨床イメージにおける内的体験の考察 ——箱庭制作においての「位置を定める」体験プロセスに焦点を当てて——
久 保 明 子	自我体験に関する一考察 ～体験についての語りとTAT反応を手がかりに～
竹 中 菜 苗	「失う」ということと「残る」ということについて ——箱庭からアイテムがなくなる体験を通じて——
畑 中 千 紘	世界の意味づけ方についての考察 ——対人場面における語りのとらえ方から——
平 松 朋 子	「自分語り」に現れる「繰り返し」を通してみた語り手の内的体験について ——「語る自分」「語られた自分」の関係から——
山 口 智	「想像上の仲間」に関する研究 ——投影法とインタビューを通して——
山 本 喜 晴	心理臨床における声及びその「異化」に関する一考察 ～3つの事例を通して
白 川 葉 子	個人の内的感覚のあり方とその言語表象化に関する一研究
吉 水 はるな	箱庭における砂のみの表現について ——砂と作り手のかかわりのあり様に注目して——
鳥 川 智 史	自己のリアリティの感覚について ——思春期・青年期を対象として——
小 松 正 明	うずまき描画の研究

(合計43名)

平成15年度卒業論文

氏 名	論 文 題 目
池 田 華 子	方法としての〈祈り〉
池 田 真 彦	身体を吹く風について チベット「ソクチェン」の教えから見た身体観
小 川 道 子	「学級集団づくり」から「ゆるやかな集団づくり」への変遷 ——交わりの指導に焦点化して——
尾 崎 夕美帆	自閉症の人といようとすること
木 村 裕	開発教育におけるエンパワーメントの検討
澁 田 絵美子	小学校家庭科教科書に表れた家族観の変遷
万 野 友 紀	富田博之の演劇教育論に関する一考察 ——エチュード方式に着目して——
利 藤 舞	ミネソタ・ニュー・カンントリー・スクールのプロジェクト学習 ——子どもたちの主体的な学びを求めて——
金 井 一 穂	まなざすということ うつしだすということ ——臨床教育学的視座から「わたし」の体験をとおして——
小森谷 多伊子	〈世界〉を担いはじめる青年期生の時間軸から空間性へ ——『ライ麦畑でつかまえて』を題材に
辻 敦 子	ベンヤミンにおける「経験」の語り方 ——『一九〇〇年頃のベルリンの幼年時代』を手がかりに——
菊 澤 聖 子	理性／狂気のはざま ——デカルトの「コギト」をめぐる——
舘 雅 行	自己を対象化する青年期のプロセス ——サガンの小説を題材として——
羽 野 嘉 朗	健康とは何か ——医学的人間学の視点から
向 真 平	西尾実国語教育学における文学教育の位置について
立 通 敦 子	生きられる老い 見られる老い ～子どもとの関わりを中心として～
和 田 篤 史	日本人の法意識と法的思考の育成 ——米国教材『わたしたちと法』に例を見る——
市 原 有希子	アイデンティティにおける同一性と差異について
上 野 彩也子	自分の求める他者像についての一研究 ～自尊感情を手がかりとして～
梅 村 高太郎	配偶者との死別に伴う夢
大 藺 博 記	囚人のジレンマ・ゲームを用いた顔記憶の適応性の検討
加 藤 奈奈子	アジャヴェュ体験と自己との関係 ～家屋画を通した一研究～
阪 野 裕 子	人はなぜ語るのか ——語り出す際の期待と不安と、語りによって生まれたものの観点から——
佐々木 聡	要約作業が文章理解に及ぼす効果 ——要約文章の質と文章理解の関係——
佐 藤 梓	自尊感情と気分がフラストレーション反応に及ぼす影響
平 知 宏	比喩が文章理解に及ぼす影響

平成15年度卒業論文

中 道 麻由子	コンプレックスから笑いへの変容に関する一研究
西 嶋 雅 樹	イメージの鮮明性と感情体験の関係について ——詩の視覚呈示と聴覚呈示を通じて——
野 口 素 子	快および不快情動が曖昧な表情の認知に及ぼす影響
藤 木 克 哉	「世代継承性」の意識と育成、発揮について
前 原 由喜夫	時間と忘却の短期記憶学 言語情報と視空間情報を交差させた実験による課題スイッチング仮説の検討
松 坂 雄 亮	運動選手の樹木画の傾向について
松 原 広 幸	障害児の母親に対する偏見に関する調査
三 浦 由起子	高齢者によって語られる子ども時代の思い出について ——支えとしての思い出、語ることで生じる気持ち
元 安 美 智	表情が顔の視覚探索に及ぼす影響
本 山 悠 子	色彩喚起感情が商品マーク評価に及ぼす影響
山 崎 麻 世	レディメイドによる自己表現 ——イメージの変容に着目して——
吉 田 幸 恵	箱庭製作によっておこる気分の変化と攻撃性の諸相に関する研究
芳 村 真 彦	「原風景」を語ることの意味について ～語り前後のバウムテストの分析を通して～
渡 邊 真 代	旅行先で感じる違和感について ——環境変化に基づく検討
浦 亜 実	スクリブルにおけるイメージ体験の言語化が描き手に及ぼす影響について ——作品に対する心的態度の違いに着目して——
明 田 源太郎	男子高校生における自己嫌悪感と信頼感の関連性について
大 家 聡 樹	青年期の親子関係とボーダーライン心性の関係について
小 坂 恵 子	内面化された他者の支えについて
小 松 勝 之	北野映画にみる家族関係のあり方
末 松 和 三	他者の箱庭表現への関わり方を通してみた対人恐怖的心性について
築 山 裕 子	「内臓イメージ」に関する研究 ——「心臓イメージ」を手がかりに——
永 峯 弥生子	大学生における居場所と自我同一性
宮 嶋 剛 介	リズム記憶における空虚時程の研究
山 下 純 平	反復する語りを聞くことの意義
濱 口 浄	久松真一の「無相の自己」についての心理学的一考察
秋 吉 菜 穂	教育政策にみるナショナリズムの変容 ——タイにおけるグローバリゼーションへの対応を事例にして——
荒 川 健太郎	政治的無関心とナルシシズム
石 井 和 美	「都立高校改革推進計画」に対する平等の観点からの評価
上 杉 牧 子	個性の社会学的規定 ——ジンメル個性論の再検討——

上 田 聡	「学校事故補償制度の現状と課題」
植 田 智 佳	若者文化におけるクラブ音楽とファッションにおける相関性について
岡 田 紋 佳	我が国におけるキャリア教育導入の展望と課題 ——教育における産学連携の視点から——
亀 山 真 甫	カナダにおける子育て家庭支援の動向 ——育児不安対策を中心として
駒 井 健二郎	政策の窓モデルを用いた教育政策過程の実証的研究 ——「ゆとり教育」政策転換を事例として——
中 川 美 奈	教育分野における構造改革特区構想推進に関する政府の役割
中 島 晋 也	広告の成り立ちとオーディエンス ——カルチュラル・スタディーズの視点から——
中 西 健 介	学校評議員の意欲を保障する制度運用上の諸条件 ——学校評議員への質問紙調査の分析を通して——
中 道 一 政	強制的精神医療と刑罰の否定
西 尾 隆 広	学力低下の克服法 ——「進路指導」が学力低下を克服する——
西 村 考 平	組織と人の相互関係
堀 井 美美子	二重の抑圧構造を意識化する開発教育
森 本 洋 介	メディア・リテラシー教育の比較研究 ——北米と日本の現状から——
前 田 一 樹	古武術の身体運用法が現代スポーツトレーニングに及ぼす効果
山 本 文	小説にみられる家族イメージの変容について
西 田 博	『心のノート』に対する批判的言説の考証
水 谷 文 彦	新聞 4 コマ漫画に内在する保守性の考察
田 中 誠 人	フリーター問題の解決は教育によって可能か
野 口 雅 史	重農主義官僚とフランス革命
鮫 島 一 泰	部落問題学習の一試案 ——結婚差別の現実から——
八 木 一 平	オープンソースとコモンズ

(合計76名)

執筆者紹介（執筆順）

子 安 増 生	本研究科教授（教育認知心理学講座）
龍 輪 飛 鳥	修士課程 2 回生（教育認知心理学講座）
江 原 武 一	本研究科教授（比較教育政策学講座）
高 見 茂	本研究科教授（比較教育政策学講座）
杉 本 均	本研究科助教授（比較教育政策学講座）
石 川 裕 之	修士課程 2 回生（比較教育政策学講座）
巖 賢 娥	修士課程 1 回生（比較教育政策学講座）
赤 沢 早 人	本研究科助手（教育方法学講座）
金 田 茂 裕	本研究科助手（教育認知心理学講座）
中 沢 哲	博士後期課程 3 回生（教育学講座）
川 地 亜弥子	博士後期課程 3 回生（教育方法学講座）
谷 川 とみ子	博士後期課程 3 回生（教育方法学講座）
松 本 学	博士後期課程 3 回生（教育方法学講座）
石 井 英 真	博士後期課程 2 回生（教育方法学講座）
伊 藤 実歩子	博士後期課程 2 回生（教育方法学講座）
篠 崎 未 生	博士後期課程 1 回生（教育方法学講座）
新 里 真 世	博士後期課程 1 回生（教育方法学講座）
安 寧	博士後期課程 3 回生（教育認知心理学講座）
山 縣 宏 美	博士後期課程 3 回生（教育認知心理学講座）
鈴 木 亜由美	博士後期課程 2 回生（教育認知心理学講座）
橋 本 京 子	博士後期課程 2 回生（教育認知心理学講座）
安 藤 花 恵	博士後期課程 1 回生（教育認知心理学講座）
平 山 る み	博士後期課程 1 回生（教育認知心理学講座）
出 口 英 樹	博士後期課程 3 回生（比較教育政策学講座）
谷 村 綾 子	博士後期課程 2 回生（比較教育政策学講座）
大 城 愛 子	博士後期課程 1 回生（比較教育政策学講座）
中 桐 万里子	博士後期課程 2 回生（臨床教育学講座）
宮 崎 康 子	博士後期課程 1 回生（臨床教育学講座）
駿 地 眞由美	博士後期課程 3 回生（心理臨床学講座）
海 本 理恵子	博士後期課程 2 回生（心理臨床学講座）
川 部 哲 也	博士後期課程 2 回生（心理臨床学講座）
中 川 美保子	博士後期課程 2 回生（心理臨床学講座）

編集委員 高 見 茂 鈴木 晶 子 齊 藤 智

編集幹事 出 口 英 樹

平成 16 年 3 月 25 日 印刷

平成 16 年 3 月 31 日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科
代表者 藤 原 勝 紀

印刷所 株式会社 石田大成社
京都市中京区丸太町通小川西入

発行所 京都大学大学院教育学研究科
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

No. 50

Contents

Effects of types of figures and patterns of movement on attributing mental states to moving figures.	KOYASU Masuo & TATSUWA Asuka
Some Crucial Factors for Effective Undergraduate Education Reform in Japan: Implications of the American Model of Universities	EHARA Takekazu
A Study of the Cooperation between the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (the Former Ministry of Education) and the Other Ministries and Government Offices (Ver.1)	TAKAMI Shigeru
A Comparative Study on Gifted Education in Singapore and South Korea:	SUGIMOTO Hitoshi, ISHIKAWA Hiroyuki and UM Hyun Ah
On the Theory of the Social Studies by D. Knowlton	AKAZAWA Hayato
Judgments on the Temperature Change of Mixed Water by Elementary School Students	KINDA Shigehiro
The way of thinking about common sense and metaphysics in Kant's	NAKAZAWA Tetsu
A Perspective of the Studies on Educational Evaluation of the "Seikatsu-Tsuzurikata" before World War II	KAWAJI Ayako
A Study on the Acceptance of Paulo Freire's Theory about Literacy Education in the United States:	TANIKAWA Tomiko
Meaning of experience of congenital portwine stain: finding the needs of psychological support for disfigurement	MATSUMOTO Manabu
An Examination of the Theory of Educational Objectives and Assessment underlying "the Revised Taxonomy"	ISHII Terumasa
The Curriculum of Heimatkunde in Austria between the Two World Wars Focusing on the Theory and Practice by Ludwig Battista	ITO Mihoko
Current and Future Direction in Family Caregiving Research	SHINOZAKI Mio
The Teachers' Role in Whole Language	NIISATO Masayo
Motivation, goal orientation, learning activities, pedagogical preferences, and performance in learning Chinese	AN Ning
The influence of entrenchment of existing knowledge on modification of students' naive concept:	YAMAGATA Hiromi
Influences of Rule Use and Social Context on Self-regulation of Young Children	SUZUKI Ayumi
The Relationship Between Positive Illusions and Mental Health in Writing a Graduation Thesis.	HASHIMOTO Kyoko
Three Viewpoints that actors have in reading a scenario and planning actions	ANDO Hanae
A review of the measurement of critical thinking disposition and abilities	IIIRAYAMA Rumi
Raison D'être of Professional Schools as the Publicness of Universities	DEGUCHI Hideki
The Problem of Educational Reforms after World War II, from Reports of the Central Council for Education in Japan	TANIMURA Ayako
A Study on Family Policy in Sweden	TANIYA Aiko
Speaking Attitude of "Hotoku" discourse	NAKAGIRI Mariko
The Becoming = The Death of the Subject in the Theory of Community as "Acéphale" in G. Bataille	MIYAZAKI Yasuko
Informed Consent for Children in Pediatrics of Japan:	SURUJI Mayumi
Re-consideration on the Thematic Apperception Test	UMIMOTO Rieko
A History of Research on Déjà Vu Experience	KAWABE Tetsuya
Supporting adolescents exhibiting excessive aggression	NAKAGAWA Mihoko